

## 評議員会議事録

日 時：2005年7月9日(土)11:00--15:30

場 所：国立天文台南研大会議室

出席者：太田，岡村，海部，柴田，須藤，千田，福井，舞原，吉井，安東，家，大橋，小杉，舘山 以上14名

有効委任状提出者：井上，高橋，高原，牧島，池内，梅村，佐藤，谷口，山本 以上9名

欠席者：小山

他に理事会から，祖父江理事長，黒田副理事長，花岡，杉山，北本，関井，蜂巢理事，及び東條事務長が参加した。

議事に先立ち，議長及び署名人を選出した。

議 長：須藤 靖

署名人：海部宣男，岡村定矩

## 報 告

### 1. 前回議事録の確認(資料1)

花岡理事より前回(2005年3月29日)の評議員会議事録が報告され，承認された。

### 2. 2005年秋季年会について

花岡理事より10月5日に記者会見，10月6--8日に年会講演，10月9日に公開講演会として準備が順調に進行している旨報告がされた。

### 3. その他

#### (1) 講師派遣データベースなど

教育委員会の努力により講師派遣データベースが立ち上がったことについて花岡理事より報告された。評議員の方にも講師の積極的な登録をお願いする。既に頻繁に講演を依頼されている人の場合データベースに登録してさらに依頼が増えても対応できない，講師へ直接依頼ができるというだけでなく，依頼を調整できるようにする必要があるのでは，という指摘があった。

#### (2) 百年史編纂委員の増員(資料2)

花岡理事より，理事会に百年史編纂委員に京都大学の富田氏を新たに加えて11名とすることが提案され承認されたことについて報告された。

#### (3) 学術交流費の報告書について

千田評議員より，賛助会員会費による旅費補助事業である学術交流費についての昨年度事業報告書が天文天体物理若手の会により作成され，4月上旬賛助会員宛に配布された旨報告があった。報告書を出したのは今回が初めてであるが，補助を受ける側の義務として今後引き続き報告書を出していく，とのことである。

## 報 告

### 1. 2006年度事業計画書案(資料3)

花岡理事より，2006年度事業計画書案が提案され，原案通り承認された。なお，2006年は会員名簿出版の年であるが，特に個人情報保護法の制定もあって個人情報の取り扱いに注意が必要な状況であり，他の学会では名簿の出版を止めたところもあるとの情報もあった。また，名簿を出すにしてもその項目については検討しなおしてもよいのでは，との発言もあった。理事・事務側で今後取り扱いを検討する。

### 2. 2006年度収支予算書案(資料4)

北本理事より2006年度収支予算書案について説明がされた。早川基金については現在全額補助と半額補助があるが，半額補助の是非について議論があり，また科研費による旅費支出と組み合わせられるのかなど具体的な使い方についても議論があったので，その内容を選考委員会にも伝え，引き続き検討す

る。また、創立百周年出版事業について、執筆者の会合が必要でありそのための旅費が提案の予算額20万円では足りないのではないか、という指摘があった。旅費等諸経費は事業全体で500万円を予定しているが、2006年度は特にまとまった経費の必要な年になるであろうことから、2006年度に150万円の旅費を配分するよう変更した。他については、以下の新規事業案等についての議論を経て、原案通り承認した。

### 3. 新規事業案の現況(資料5)

関井理事より、現在の学会の財政状況を踏まえた新規事業及び既存事業の見直しについて説明・提案があった。月報については新規発行分の印刷用PDFファイルの購入とスキャンによる旧号のPDF化を予算化しており、100号記念号は検討中であること、年会については予稿集の値下げを予算化、準会員講演登録料の見直しを検討中であること、が報告された。その他、講師派遣キャンペーン、百周年祝賀会・講演会、百年史、学会事務体制見直しも検討中であり、また会費の変更も検討中であるとの報告があった。来年度予算化が提案されていたものについては承認した。準会員の年会における講演登録料の見直し(値上げ)は、研究者でありながら準会員として研究発表する人の正会員への移行を促進するものであるが、一方準会員はアマチュアが多く、学会の中では研究者とアマチュアは共存しており、アマチュアを学会発表から遠ざけるような形は避けたいとの意見もあった。

PASJについての新企画は予算の変更の規模が大きく、以下のように別途議論した。

### 4. PASJの出版・販売について(資料6, 席上配布資料)

蜂巢理事よりPASJの雑誌としての規模の充実・拡大へ向けて半額ないし無料化キャンペーンを行いたいと考えているとの提案があり、その場合に必要となる費用について試算の報告があった。前回半額キャンペーンを行ったときには50%の投稿数増加があり、キャンペーンはPASJのパワーアップに効果的との認識である。キャンペーンは1年より2年続ける方が十分な効果が得られるのではないかと、しかし財政的影響も大きく百周年記念事業にも予算を見ておく必要があるので注意が必要である、という指摘があった。キャンペーンの時期については、百周年とあわせるのもよい、いやもっと早く2006年からの方がよいのでは、という意見があった。全体として半額化等のキャンペーンには賛同が得られたが、PASJの今後の予算については、出版社との契約の仕方によって学会負担分が大きく変わり得ることなど他にも種々の不確定要素があることが報告されたため、結局2006年度からの実施は今回は保留とし、引き続き検討することとなった。

また、祖父江理事長よりPASJの地位向上と言うことに加え、日本の税金による研究成果を日本の学会誌に発表するという意味も含めて、PASJ月刊化へ向けてのよびかけをすることについて説明があった。

### 5. 初等・中等教育に関する学会要望書について(資料7, 席上配布資料)

祖父江理事長より要望書案をまとめるに至った経緯について教育懇談会の活動も含めて説明があり、今後学習指導要領の改訂時期(この秋までに初等中等教育分科会が答申を出す)を目標にして要望書を中教審・初等中等教育分科会等へ送付し、また記者会見も行って発表したい旨提案があった。学会として要望書を発表することについては、積極的に出すべきであるということで承認された。また内容については、学会の要望書としてあるべき全体のスタンスから文案に盛り込むべき具体的項目まで様々な意見が出された。今回の議論の内容を踏まえて祖父江理事長、松田懇談会座長がさらに改訂し、eメールで評議員に回覧しコメントを求めた上で最終版とし、発表することとなった。改訂の期限と発表のタイミングについては理事長に判断を任せる。

### 6. 2009年「国際天文年」について(資料8)

祖父江理事長より、学会として世界天文年への賛同を決定したことについて報告があり、また海部評議員よりIAUでの世界天文年の発議、日本国内での提案の状況等経緯の説明があった。ユネスコ国内委員会には提案済みであり、今年のユネスコ総会で承認されることを期待しているとのことである。承認されれば今後天文学会を含めた関連団体で実行委員会を結成することが必要となる。ただし、人や予算について学会で大きな負担をするのは困難であり、天文財団や国立天文台による実質的な面でのサポートを期待する、という認識である。

## 7. 2005年秋季総会議題(資料9)

花岡理事より説明があり、原案通り承認された。

## 8. その他

### (1) 理科年表シンポジウムについて

海部評議員より、12月に理科年表シンポジウムを予定しており、天文学会にも協賛を依頼していることについて紹介があった。理科年表は近年大きく変貌しており、特に環境編を加えたことについては注目を集めている。インターネット版理科年表の構想もある。このような機会に、正確なデータを保持しておくことの重要性をアピールすることができると考えている、とのことである。

### (2) JAXAの長期ビジョンに対する提言について

花岡理事、祖父江理事長から、JAXAの長期ビジョンに対する提言を学会から出してはどうか、という提案があることについて説明があった。小杉評議員よりJAXAの宇宙科学の現状について、すぐに役立つ実用偏重とアメリカのブッシュ新宇宙政策に対応する有人宇宙飛行指向の日本の宇宙開発全体の将来像の中にあって、宇宙科学はその独自の意義が忘れられて片隅に追いやられかねない危機的状況にあるという認識を持っている、このため学会等の学術コミュニティから宇宙科学振興の働きかけがなされることには期待が大きい、との説明があった。現段階では天文関係者がまず宇宙科学の将来への関心と危機感を持ち議論を行うことが重要である、という指摘があり、このための具体的活動としては、必ずしも長期ビジョンとそれに対する提言という形にはこだわらず、学会で特別セッションを開催していくようなことが考えられる。理事長がその世話を関係者に依頼し、実行していくこととなった。

### (3) 次回以降の評議員会日程

次回は秋季年会中、10月7日の昼休みに開催し、次々回は2006年1月28日(土)11:00 より国立天文台(三鷹)で開催することとなった。

2005年8月4日

議長 須藤 靖 印

署名人 海部宣男 印

署名人 岡村定矩 印